

新年にあたりご挨拶 木の住まい論 4

令和の初めてのお正月、おめでとうございます。

新しい年を迎えるにあたり、皆様のご健勝とご発展をお祈り致します。

2030年には人口が900万人減少し、高齢人口が三分の一を占めるようになる。また、このままでいくと気温は1.5℃上昇し、気候変動に伴う様々な災害の増加が予想されている。現在の住宅総数6200万戸を超えるが、空き家は50万戸に及んでいる。

こうした状況下で、新築による住宅フロー主義からストック活用に大きく舵を切っていく必要がある。

愛着の長持ち住宅の実現と中古住宅の価値再生、住宅ストック情報の透明化と中古市場の活性化が強く求められているのである。今回は、木造住宅について考える「木の住まい論」の続きをお届けします。

木の住まい論4 木造住宅の木骨住宅化と「古民家」ブーム(1) —東樋口護

この大量に作られる近代的な木造住宅は、防火のために柱・梁がモルタルの塗り壁で覆われることになった。そして、この水を使い乾燥時間の必要な湿式の塗り壁は、サイディング材などのボードやパネルに替わっていった。こうなると、木造住宅の骨組みは外壁材・内装材を自由に貼り付けるものになり、鉄骨のプレハブ住宅や木造のパネル構造であるツーバイフォー住宅と見分けがつかない。

柱と梁は、隠された構造部材になり、木造住宅は木の骨組み住宅になった。木造住宅は、この「木骨住宅化」によって、新建材の巨大な市場となり次から次へと開発される新建材とともにめまぐるしく外観の表情を変えることになった。

近年、京町家を始め伝統的な木造住宅の価値が再評価され、「古民家」がブームになっている。この伝統的な木造住宅は、木の柱と梁による構造軸組、瓦屋根、土壁・漆喰壁といった湿式の塗り壁で構成されていた。二、三〇年前には、古い、暗い、寒い等と、古くさいものとして排除されてきたもので、とても考えられなかったことである。

なぜ、「古民家」ブームなのか? 「古民家」に求められているのは、単なるノスタルジーではない。それは、近代化した木造住宅「木骨住宅」では満たされない、伝統的な木造住宅の良さの再評価である。

それは端的には、かつて小泉八雲やブルーノ・タウトらが、日本の住まいの美学として賞揚した木造住宅の「美しさ」である。木・土・石・紙・草などの地域の自然素材を有効に使い、地域の気候風土に合わせて、多雪地帯では剛健な建物を、高温湿潤な地域ではより開放的な住まいを、というように地域条件に適応した自然と共生する住宅であった。

柱・梁の構造は、そのままおもてにあらわされ、その力強さはそのまま自然と共生する気持ちを、街並み景観や農村の風景として表現していた。(つづく)

本年も、点検登録店と支援センターでの維持管理サポートを要として、住宅所有者様との信頼関係を強固にして、永く良好な関係が続くよう活動をして参ります。宜しく願い申し上げます。

一般社団法人住宅長期支援センター
理事長 東樋口 護

★賛助会員様の情報提供

<https://www.woodone.co.jp/product/kitchen/> 木を育てている会社を作る、木のキッチン!

<https://www.woodone.co.jp/showroom/> ウッドワン(株)様の全国のショールーム情報!

<https://woodone.jp/> インスタグラムをはじめ、無垢の木のある空間をご提案!

※ 維持保全計画、点検の実施についてのご質問、ご不明の点は、事務局までお問合せください。

※ 「登録住宅いえかるて」のご説明は、ホームページをご覧ください。<http://www.holsc.or.jp/iekarute/>

※ 「登録住宅いえかるて」WEBの「住宅所有者ID」をお忘れの方や不明の方、ご質問や資料をご希望の方、「担当の点検登録店」がご不明の方は、info@holsc.or.jp へメールをお願い致します。

- ※ センターのブログ、Facebook も是非ご覧下さい。
 - ブログ <http://www.holsc.or.jp/information/blog/>
 - Facebook <https://www.facebook.com/一般社団法人-住宅長期支援センター-265533456815676/>
- ※ お住まいのご質問や相談、空き家の管理や活用の電話相談を承っています。
- ※ 自治会や子供会等へ「住まいの出前講座」をお受けしています。イベント企画にご利用ください。
- ※ このメールマガジンをご希望、又は不要の場合は、info@holsc.or.jpへご連絡をお願い致します。

一般社団法人 住宅長期支援センター

TEL : 06-6941-8336 FAX : 06-6941-8337 〒540-0012 大阪府中央区谷町 1-7-4 MF 天満橋ビル 5 階